

**製品名:  $\beta$ -1,4-GalNAc-T ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab20342**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	60kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CSGALNACT1
別名	CSGALNACT1; CHGN; GALNACT1; Chondroitin sulfate N-acetylgalactosaminyltransferase 1; CsGalNAcT-1; Chondroitin beta-1; 4-N-acetylgalactosaminyltransferase 1; Beta4GalNAcT-1
遺伝子 ID	55790.0
SwissProt ID	Q8TDX6
免疫原	抗血清はヒト CSGALNACT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-250

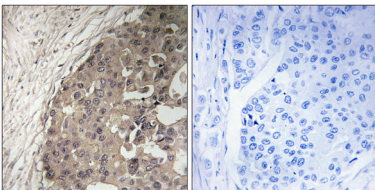
**背景**触媒活性:  $\text{UDP-N-アセチル-D-ガラクトサミン} + \beta\text{-D-グルクロン酸-(1}\rightarrow\text{3)-D-ガラクトシルプロテオグリカン} = \text{UDP} + \text{N-アセチル}$

-D-ガラクトサミニル-(1→4)-β-D-グルクロン酸-(1→3)-β-D-ガラクトシルプロテオグリカン。機能: UDP-GalNAcからグルクロン酸 (GlcUA) の非還元末端へ1,4-N-アセチルガラクトサミン (GalNAc) を転移する。コア四糖リンカーへの最初のGalNAcの付加、およびコンドロイチン鎖の伸長に必要。軟骨におけるコンドロイチン鎖生成において重要な役割を果たします。、オンライン情報:コンドロイチン ベータ-1,4-N-アセチルガラクトサミニルトランスフェラーゼ 1,オンライン情報:GlycoGene データベース,PTM:N-グリコシル化,類似性:コンドロイチン N-アセチルガラクトサミニルトランスフェラーゼ ファミリーに属します。、組織特異性:普遍的に存在し、胎盤、甲状腺、膀胱、前立腺、副腎に最も多く存在します。検査した他の組織では低濃度で検出された。、触媒活性: UDP-N-アセチル-D-ガラクトサミン + β-D-グルクロナル-(1→3)-D-ガラクトシル-プロテオグリカン = UDP + N-アセチル-D-ガラクトサミニル-(1→4)-β-D-グルクロナル-(1→3)-β-D-ガラクトシルプロテオグリカン。、機能: UDP-GalNAcからグルクロン酸 (GlcUA) の非還元末端へ1,4-N-アセチルガラクトサミン (GalNAc) を転移する。コア四糖リンカーへの最初のGalNAcの付加、およびコンドロイチン鎖の伸長に必要である。軟骨におけるコンドロイチン鎖生成において重要な役割を果たす。、オンライン情報: コンドロイチン β-1,4-N-アセチルガラクトサミニルトランスフェラーゼ 1,オンライン情報: GlycoGene データベース,PTM: N-グリコシル化,類似性:コンドロイチン N-アセチルガラクトサミニルトランスフェラーゼファミリーに属する。、組織特異性: 普遍的に存在し、胎盤、甲状腺、膀胱、前立腺、副腎に最も多く存在する。検査した他の組織では低濃度で検出された。、

## 研究分野

コンドロイチン硫酸の生成;

## 画像データ



CSGALNACT1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。